都高時報
第38号
都大附高新聞部
東京都目黒区金町591
編集責任者　寺脇隆夫

日常の話合を
記念祭の反省

×十日余たつた去る四日、今年の記念祭を反省して、来年の記念祭をめざす、生徒大会が開かれた。

新制第七回記念祭は、放研の問題、3Bの問題等いくつかの問題を残したが、例年に比して大きな進歩をとげて閉幕した。×

生徒大会

まずまず成功か
問題残す三B不参加

議長は、執行委員会から推せんされた河尻君に決り、議事に入つた先ず議長河尻君から、焦点をしぼらず、当日のことなど出し合つてから焦点をしぼつて討論に入るという方針が述べられた。

事務的仕事の遅れについて、陰山君（2C）が、執行委員会の反省を求めた。執行委員長小沢君が、これに答えて、今年はみんなで参加できる記念祭にするために、意義目的を徹底的に討論する方針をとつたが、このために事務的の仕事が多少とも遅れ、また執行委員がクラス等の重要ポストをしめて十分な活動ができなかつたと述べた。途中で、執行委員会、クラス等の反省についての発表の要求があつて、先日の反省懇談会について、小沢君が、先輩との関係プログラム配布のおくれ、ファイアーのなどの技術的問題が出されたことを発表した。

クラスの反省会について2Aの吉田君から、未だ記念祭の目的がわからないと、また2Cの杉山君から、クラス・ノート等に劇の上演が有義義だという声が多く等出された。桑原君（3A）は、記念祭に対する意識が低く、各自の等に力が十分に果されていなかつたことをついた。岩田君（1B）は、参加出来る人数の問題等で評判の悪るかつたスポーツについて応援もなくてつまらなく、また演劇を二日とつたため新しい企画がつぶされそうな傾向で全く期待はずれであつたと述べた。

一年生等の今年の記念祭がつまらなかつたという声に対して、中村君（3A）は今年の記念祭はつまらなかつたといつても、記念祭から逃避しようとする意見が出され、多数に支持された。続いて記念祭に対してもつと簡単に切つて、記念祭に反対ならば、全く触れないということが望ましいと結んだ。これに対しては宮川君（3A）は、極端な考えで、みんなの参加できる記念祭にもつていくのが、正しい道であると述べた輪の大きさ、歌の練習不足等とかく問題を残した、ファイアーについて、後に残る虚無感を無視した旧制時代のファイアーを、復活しようとか止めようという様な意見の処理が、必要だという意見が、桝田君（1A）から出された。

記念祭に対して傍観的に参加した3Bの問題について、無責任である、自己の意志に忠実である三年生の受験と、控えた特殊な事情を理解しよう等の意見が出されたが3Bの中山君は、個人個人が記念祭に何か演し物をしようという意見を持つていても、それが一つにならなければ完成しないが、受験を控えて、個人個人がばらばらになつている、そこで、単に記念祭があるというだけでは、何もできない。そこには、日常からのクラスの結びつきがつくられていなければならないと結んだ。クラスのホームルームの停滞などこの際考えるべきであるという事を残している。

また、これに対して、記念祭から逃避しようという態度であるとか三Bを非難する程、記念祭を作ろうという意識が高いだろうか、等の意見が出された。

放研の来年からは、自主活動を守る為に、譜割配線に触れないという明確について、説明がなされ、時間厳守のしかよせ等の理由があげられたが、学校全体の大きな協力理解があつたならば起らなかつた問題であるといえよう。

発言者の少ない低調な大会だつたが、時間も残り少なくなつたとき議長から、個人個人の記念祭の反省に役立つような、まとめる様な意味の発言の請求があり、これにこたえて、斎藤君が、無理のない記念祭には、全校的まとまりが必要であり、それには、日常の話し合いが基礎になると述べた。また桑原君は、今年の執行委員会の意義目的を討論した態度は正しく、一年生の積極的参加、二年生の慎重さは、りつぱであつたが、3Bが傍観的に終つたのは、残念だつたと結んだ。

配線問題解決す
記念祭反省懇談会

記念祭反省懇談会は生徒大会と前後して三回開かれた。

第一回目は十月二十八日音楽堂に約六十人が集まり行われた。

まず学校側から「今年の記念祭は最高水準に達した。今後に幅と質を高めることに努力すればよい」との見解が出された後、今年の執行委員会の歩みから劇の乱立プログラム、ファイアー、譜割配線に関する問題等議論は技術的な欠陥に集中された。特に譜割配線の為に屋外を中止せざるを得なくなつた放研の「来年からはタツチできぬ」という発言に議論が交わされたが、結局は結論が出ぬうちに生徒大会の開催を決議して閉会した。

第二回目は十一月十日に開かれ、十数名という少人数であつたがやはり先の様、問題に討論がしばられ、引続き翌日に持ち越された。異休的に「スポーツは記念祭に不必要」「クラスマッチに比べると灯滅」「ファイアーは男子と女子の妥協にすぎず意味なし」「薪が少なすぎ、又時々的にはあれが限度だ」等出され、更に放研ができなければ来年の配線は職人に頼るか、放研以外でやる他ないという問題に関しては「やはりどうしても生徒自身でやるべきだ」「執行委員会に譜割配線係を作り放研は指揮する位ならできる」という具体的な解決策も出て更に「予算が少なすぎた」「自治委員会の空日はやはりブレーキだつた」等議論百出の内に終了した「この反省を来年必ず生かさなければならない」が共通した意見であつた。

教育課程改訂
教育の破壊を
差別教育・生徒の意志無視など

高校教育課程改訂の問題が最近大きくクローズアップされてきた。

昨年の十月、教育課程懇談会は文部省は同年十二月、これに基づいて、三十一年度第一学年から改訂を実施するよう各県に通達を発した。この後先生方の組織を中心に反対の声があがつてきたが本年八月「改訂の実施は文部省にある」（すなわち教育委員会にある）とする委員会や組合の態度と反対の意思を明らかにする文部省の態度が表明され、さらにまた最近一般新聞紙上で強行実施するということが明らかにされ注目されている。

改訂の骨子は現行のものを普通課程、実業課程、家庭課程などのコース制に編成変えすることであり、文部省はその理由として「現在の教員数、施設では選択制には無理である」「生徒に選択能力がなく未純な動機で選ぶ」「選択制だと知識、教養がかたよる」「科目が一年間にまとまつているから生徒の負担となる」「これから生れる産業難を緩和する」などだが一方組合の方では文部省自身の無力と無定見を選択制の記にしているとし、コース制にしても現在の人員、施設では話にならず、形式的に変えても何にもならず、生徒の選択や知識の偏重なども指導の問題であり、大学入試の民主的な改善が必要であり、現行制度にも多くの矛盾があるがその積極的な意義に立つて発展的に検討すべきで盲のようにすることでは何も解決できない。またコース制は明らかな差別教育の復活であり科目選択の余地は皆無にひとしくなるし生徒の個性と志望は無視され、一方的なおしつけが学校教育を支配することになり、さらに男女別学や学年の階級制度をさえ復活させるのではないか、そして普通科の高校は完全に大学の予備校になるという、という理由でこのような重大な改訂が短い準備で行われることは非常識であり明年度からの実施に反対している。

また教育委員会ではこれを重大な問題とし特に調査委員会を設けてその報告として「現行教育制度を破壊するものではならない」「進学の機会均等をはばむものではならない」「実施に当つては人的、物的な準備が充分である必要がある」「現場の教員、文部省とも充分な準備の下に行われるべきである」など極めて批判的な態度を取つており、本月末に明年度からの実施についての態度が決定されるが注目されている。

この教育課程改訂は戦前の教育が中学、高女、実業等に分けられこれらの学校に明確な差別教育が行われていた制度への逆コースであると見られ、また普通課程（進学コース）を取つている学校へは入学希望者が殺到し、大学受験にも比するような高校への受験のため、中学やひいては小学校の教育が破壊されることがおそれられている。

なお反対運動は組合や一般教育者、学界等を中心に行なつており組合では文部大臣に実施を延期するよう陳情に行つたりしたが、一般の父兄等もこの問題に関心をよせ教育を守るために手をつないでくれるよう呼びかけている。

コース別すでに本校でも調査

すでに本校でも去る十六、二十二日と一、二年生に渡つてこれに関する事前調査的なものが行なわれている。「どういう方面にすすむか」というもので、理科、文科、文理科等項目をあげ調査が行われたが、その割合はほぼ一対一対一であつた。

主張
受験と僕達の生活について

記念祭が終つてすでに一ケ月、大部寒さが身にしみるようになつてきた。

生徒大会でも、かなり問題にされたが、三年B組が記念祭に（積極的に）参加しなかつたことは三年生の自治委員が未だ選出されていないことと共に多くの問題を含んでいるようだ。

不可避的に原因は受験なのだがそれはあまりにも深刻な問題だ。三年生のある人が「冬が近ずくと木の葉が一枚、二枚と落ちて行くように、受験が近ずくと友達が一人、二人と疎遠になつて行く」などと嘆いていたが、一年生にだつてこの傾向は表面には現れないけれど暗くなつてきている。

現在の三年生でいろいろな事情でこの学校を幾人かの人が去つて毎年十人近くの自殺未遂者を出すほど、受験というものが表面的ではないにしろ、いくつかの悲しいことが僕らの身のまわりにもある。受験が原因ではなく家庭の事情や、経済的なものであれ、ハラを割つて話すことのできる友人がいないということが退学ということにしろ何にしろ、それらを引きとめることができなかつた原因ではなかろうか「他人より一点でも多く取らなければならない、一分でも多く勉強しなければならない、そうしなければ浪人しなければならない、友達なんか作りたくたつて、記念祭に参加したくつて現実はあまりにもひどいんだ」いつたいどうするつていうんだ、何もできないじゃないか」これが僕らの偽りなき姿かも知れない。

僕らが好むと好まないとにかかわらず、自分の中にとじこもり、エゴイスティックになつて行くそういうことが記念祭でも傍観者になつて現れるのだが、それらは受験—現在の教育制度—から必然的に生れてくるとはいえ、だからなにもできないんだと悲観的になるのはいけないと思う。

僕らは受験問題の本質とか、そういうことを論議するよりも、全ての人が一点でも点をよくし、一人残らず大学へ入れるよう、励まし合い、勇気づけて行くことが大切ではないか。そんなことと関連して生徒大会で三年生の中山君が云つた「毎日毎日の生活の中で結びつき、お互いを理解して行くのでなければ苦しい受験勉強の中で劇をやることなど不可能ではないか」は大事だと思う。

今年の記念祭では目立つたことはクラスの重点が強くなつて来たということだ。クラブ活動をしている者が少いからクラスが重点をしめたという見方もあるが、勉強という生活の場での結びつきが以前にもまし強くなつて来たと思う。そしてこういう中から二Bなどで言われているようにクラスに親しみが持てるようになつた人は多い。

僕達が受験という中で終つていくことは苦しいが、僕らはその中で一人になる多くの友と手をとり合い乍ら進んで行こう。

勉強会もいいだろうし、ピクニックに一日を過すこともいいだろう、二年生の一部で計画しているサッカーのクラス対抗も実現すればすばらしい。

記念祭で生れて来た個々の友人関係、そしてクラスの雰囲気、そういつたものを、もつともつと高ぬ、お互いに励ましあい、努力して行こう。

そうやつて行くことが受験に対処しうる道ではないだろうか。

世田ヶ谷郷火災に
救援物資おくる

去る十三日世田ケ谷区下馬の世田ケ谷郷で大火があつたが、このことが早速三A、二A等の十六日H・Rで取上げられ、被災者に一羽も温い手を、と衣類や学用品、お金等のカンパをすることが決議され、自治委員会でもこれを取上げ全校に呼びかけるようにと要求した。この結果翌十七日には緊急自治委員会が開かれ、全校と共に他校にも呼びかけることになつた第一次〆切の十九日正午までに集つた救援品は左の通りで、早速被災者の手へと渡された。

衣類一七九点、現金一九四八円
食器二二個、雑品一、靴二足、家具一

その後も続々と集つている、自治委員会ではこのことを他校にも呼びかけている

自治委員会組織決る

去る十月十三日の生徒大会で岡田君が自治委員長に決定していらい自治委員会はその組織及役員等を急がれていたが左の如く決定したなお副委員長は委員長の指名であり、また議長は今期から始めてとられた。

自治委員長　岡田　隆郎（二C）
副委員長　小沢　正英（二C）
　　須出真理子（二C）
書記局　杉崎　和子（二A）
　　鈴木　啓充（二B）
　　野村　桃子（二B）
渉外局　本郷　和子（二C）
　　桝田　健二（1A）
　　須出真理子（二C）
　　宕田　末広（1B）
　　斎藤　麗（1C）
　　高品　斉（1C）
会計局　河村　泰二（二A）
　　佐伯　田美（1A）
　　真弓　葉子（1B）
　　桝田　健二（1A）
委員会議長

現二年修学旅行
紀州に内定

現二年生の修学旅行は希望調査の結果絶対多数で紀州方面を希望していることが判り、この方面に内定した。なお時期は明年四月はじめとなられている。

大学のパネル
ファイアーの灰に？

記念祭のファイアーの時に大学演劇部のパネルを燃やしたのではないかという疑問が大学演劇部より執行委員会に持込まれ、去る七日この問題のために執行委員会及自治委員会の合同会議を開いた。周囲の雰囲から見て燃やしてしまつたという結論に達し善後処置を大学側と協議の上取ることを決定した。

ラジオ

▼記念祭も終り最近ぼつぼつきり秋も深くなつた感であるが、今年の秋は大した台風もなく米は大豊作だと云う。なんと云つてもうれしい事だ▼だが日本には一方で豊作に喜ぶ農民がいても他方では大切な畑を警官隊の軍靴でメチャクチャに踏み荒されていている農民達もいる。よその国の飛行場の拡張のために▼「アツナグラレマシタ、ヒキスラレマシタ」調の砂川町の強制測量の実況放送にはすぐにでも飛んで行つてやりたい憎しみを覚える▼一人の娘さんは畑のまん中で警官達に囲まれ「彼をゆるせ」「帰つて下さい」と警官の胸にすがりつく、測量班を守る警官に「アメリカの犬」と口ぐちに浴びせる娘さん、「私達は測量を妨害するのではなく、自分達の土地を守つているのです」とくり返す八十歳のおじいさん「おめえ達何の権利で人さまの畑け入るんだ、それでも日本人か」とさけぶ人、まるで手に取るようにその有さまが浮んでくる▼御無理御もつともだが国と国とが結んだ協定である以上、国際信義の上からも、小乗的な所から見ず、大きな目で見よ、と新聞の社説は地元民を説得しようとしている▼誰が何時のまに結んだ協定か知らないが、軍備なき再軍備が行われてはいるがこれは憲法以上のものらしい▼国際信義のためです等と云つてどこかの国との話合いや、安全条約のために、五円業警で〝勝つて来るぞと勇ましく〟などと見送られるようになるのではたまらない▼砂川町の見張り台のマイクは叫んだという「皆さん、この暴力をよく見て下さい。狂犬と化したアメリカの手先のこの乱暴を見ととげて下さい。報道陣の方々もよく見て下さい」と。

代々木の大学受験科
第一志望合格の秘鍵は本学院で！
冬期講習　特設科　12月18日～12月23日
　　本講習　12月24日～1月7日
特設科＝科目本位1週間
本講習＝志望校別クラス編成
社会、理科全科目単科
◇東大、綜合、早慶文科、理科、医薬理二、英数、日本史、世界史、人文、一社、物理、化学、生物、各受験科
公開模試　④11月23日⑤1月22日⑥2月12日
第三学期　前講1月8日、1月10日、1月11日
代々木学院　渋谷区千駄谷5～856　国電代々木駅前　電渋橋(37)4545・9666
東京学院　国電市ケ谷　電九段(33)8896
東京予備校　国電水道橋　電九段(33)7006

新しい記念祭から楽しい自治を

記念祭を終って

記念祭後はや一ケ月、今年の記念祭で、新しい、秩序たつた記念祭の基礎が確立したという声がかなりある、私達は、この基礎を発展させ、その附随した新しい問題ととりくんでよりよいものにしていこう。さらに　それらを日常の生活に広げ、楽しい、有意義な学校生活を送ろう。

楽しい学校生活に

記念祭意識の変化

三日間の記念祭も無事に済み、何はともあれ喜びに耐えない。

だが、果して記念祭を本来の意味から成功裏に終つたかどうかは尚疑問の余地がある。

私が感じた範囲では、種々な難性や疑問を含みながらも、やはりある段階に至つたと思う。

過去の記念祭意識が方向を変え意気を示すと言うのではなく、何であれ楽しもう、新制都立の全員で楽しもうとする方向へとであると思う。勿論それが完全なものであるはずは無い。

演研の劇、キャストが半分まで一年生で占められているのも考えるべきところもある。装置は不完全加えて最後に綜翔が行きとどかぬといつた始末、聞いた処によると装置が三年一人丈しか完全にあいた体でないといつた始末だそうだから、現在のクラブ活動とその限界を感じさせずには居られないし、その現われとして、記念祭前の恒例の部対抗がその空気さえも盛り上らないことが上げられる。大きな事は言えないが、少しずつでも自分達の行為がより効果的に表現出来るチャンスを造り出す為に全員の協力が必要だと思う例えば、演研の二重舞台が各組で使えたの類は、小さきが喜ぶべき事と言いたい。また、講堂の清掃も良く出来た。少しほめ過ぎた様だが、一方、例年の悪習を踏襲して依然として傍観的なエゴイストをもつて任する始末、記念祭委員と少数の人間を除いて見ると、組に居る比較的な数を占めている逃避組や、反対派……。

また、考えさせられる処では、一Cで先輩の誓き下しものを抜かつた事は否定しないが、脚本決定の動きに難点があつた。例えばクラスの構成員にまして、斎先生の言動のウエイトが大き過ぎはしないかと言うことである。また生徒の都合で、級の演劇の運行に不都合が生じたりするのは感心出来ない。

今後の問題は大きい、そして、一、二年生の背に今後のそれがのこされていると言う事実は大きな希望と期待の対象と考えてもよかろう。今後の精進を望む。

新制都立の新しい伝統を育くんで行こう。

(三A　N・Y)

受験との両立は不可だ

記念祭反省の生徒大会では、とうとう三Bが槍玉に上つた。既に数回も三Bは生徒大会で勧告を受けた。「中山が何かいつていたが本当はあんなことより外にもつとはつきりした理由があるのだ。一体全体記念祭にあんな莫大な費用と労力と時間を費してもそれで、僕達学生は済むだろうか。僕達は大学に入らなければ将来困るのだし、大学へ入るには何倍もの浪人と争わなければならない。こういう現実に目をつぶつて記念祭をやれと云われたつて出来ないのが当然だ。何も記念祭をやめろというのではない。只そんなことまでする暇がないのだ。記念祭の当日大学の図書室で勉強していたつてそいつこそ大学を落ちろということに等しいのだから、そんなところまでとやかく云うのは、先輩にも限りがあると思う。もう二回もやつたんだし、この一回の記念祭のために二年も三年も浪人するのはいやだからそれは個人の自由と思う。

僕は三Bの者だから三Bを弁護するのではない。A組だつてC組だつてB組が羨ましいと云う人が沢山居るんだから、そつちに偉そうに自治だの平和だの云う前に、そういうことを考えるべきだ。

たりなかつたファイト

今年の記念祭は面白かつた、良いものだつたという声がかなり有る。私も何となくそう思つた。しかし「昨年にくらべて何となく」であつて、とりわけ面白かつたわけでもない。こんな事になつた理由として時間的に困難だつた事と自分自身のファイトの問題がある。あそこでもう少しファイトが必要だつたんではないか？という疑問が思い出す度にわいて来る。そして、それが部全体に又、全校に疑惑が起きてくる。いくら「楽しかつた」「面白かつた」といつても今年の記念祭が、ファイトにあふれたものであつたかどうか。私は執行委員会にそう思わせる所が多分にあると思う。

委員会のメンバーがクラスの重要ポストをしめていた事が、何かの理由になつていたが、これはたしかに考えるべきことである。しかし、その前に個人個人のファイトと他人の協力について、考えるべきことではないだろうか。

(二B　平山)

確立された記念祭の秩序

片山　徹

今年の記念祭は、昨年の記念祭で欠けていた点がよく克服されていへん秩序のあるよい記念祭であつたと思います。それは委員長の小沢君をはじめ執行委員の諸君が精実な計画をたてその実行に当り、全校生がよく協力したからだと思います。昨年の委員長桑原君が小沢君をよく助けて、昨年のような三年対二年の感情の対立などもなかつたし、講堂やファイアーにおける進行にも配慮がゆきとどいて、委員諸君の連絡ある活動が見られました。学校に泊りこまねば準備が出来なかつたこれまでの慣習を打ち破つたことも、今年の大きな改革の一つでしよう。

また今年ほどその年の記念祭歌がうたわれたことはありません。運動のあとの全校生の合唱もなかなかいいと思います。旧制高校時代のファイアーストームを知る人たちは、あるいは近ごろの学生はおとなしくなつたと嘆くかも知れません。しかしそれは時代の変化に伴う大きな進歩であると思います旧制高校のすぐれた点は受けつがねばなりませんが、改めるべき点はどしどし改めて新しい高校のあり方を発見してゆかねばならないそのことは四年前の川上君の犠牲をきつかけに、特に深く強く考えさせられたことでした。そして年々諸君の努力によつてその道が辿られてきたと思います「今年で新制高校の記念祭の形が一応うちたてられた」と大石先生はいわれましたが、戦後の無秩序の混乱状態からこの数年をふりかえつてみて私も全く同じ感じです。

勿論その内容は諸君の不断の努力によつて年々新しくされ、激刺とした生命が受けつがれてゆくことと思います。とにかく私は今度の記念祭を通して諸君に対する信頼を一層深くし、諸君に対して、また日本民族の将来に対して、大きな希望と喜びを感じました。

(本校教諭)

集団の中での自己の解放を

喜多迅鷹

「先生、だんだん記念祭もつまらなくなりますね」毎年記念祭になると都立高校時代のいわばグッド・オールド・デイズを悔い出して生が都立へ向う時むしろ時間の流れを逆にたどつてやつてくるのではないだろうか。しかし、そこでなさはおそらく彼等の抱くイメージと合致しない故のつまらなさであり、自分のノスタルジアが満たされない故の不満であろう。卒業かが大挙訪れてくれる卒業生がきまつてうらめしそうに発する言葉がこれである。しかし、このつまらなさはおそらく彼等の抱くイメージと合致しない故のつまらなさであり、自分のノスタルジアが満たされない故の不満であろう。卒業生が都立へ向う時むしろ時間の流れを逆にたどつてやつてくるのではないだろうか。しかし、そこでは準備が出来なかつたこれまでの慣習を打ち破つたことも、今年の大きな改革の一つでしよう。

はファイアーが昔に変らぬ焔を挙げていても、もはや「一つとせ」は何か空虚な響きしかもたらさなくなつてしまつて「われらせいねん」とスラグ的なメロディーが静かな共感を勝つている。記念祭につきものであつた飲酒酔態もいまは後を絶つてしまつたし、そういえば、ふだんでも何回となく夕食抜きの職員会議にまで紛糾させたあの憎むべき喫煙問題もいつとはなしに消え去つて行つた。この落ちついた統一のとれた記念祭を前に、ともすればさびしさと無気力さのみを感じ勝ちの卒業生の胸のうちには出口を探しての青春の自虐的な狂燥が情熱的なけんらんたる思い出となつて、喧騒はシンフォニーとなつてよみがえつて来るのであろう。記念祭が毎年この学園の若人たちによつて新しく創られて行くものである限り、それは固定することができない。しよせん、混乱の象徴は混乱であるべきことを思うべきであろう。しかし一年生も同じようにいう。「期待していたよりつまらなかつた」と。このつまらなさは自己を集団の中で充分解放し昂揚せしめることのできなかつた焦立ちを表現しているかに思われる。こうして勉強し、こうして記念祭をし、こうして卒業し、進学し、そして就職するのです、と自己の前に敷かれた軌道を前にして自らを主体化できないが故の不安であろう。あるいはまた自己主張のすべてを知らない中でのゲミュートのもらすカオスへの悩れであろうか。

(本校教諭)

深い友情で互いに成長を

二八年度卒業　富館孝夫

毎年劇の数が問題になる。今年も殆んどのクラスが劇をやつたようだ。しかし、問題はその数にあるのではなく、内容、やり方にあることを見誤つてはならない。劇をつくつていく中で、クラスがまとまり、より深い友情が結ばれ、前より豊かな学園生活が生れるならば、全クラスが劇をやつてもよいと思う。反対に、劇をやることが一部の人の負担になり同時にクラスの中に特殊なグループを作つてしまうようであつたら、そのクラスは何か別の、もつと豊い創意性に富んだものを、みんなでやる工夫がほしい。この点今年はどうだつたろうか？

私達の経験から云つて記念祭は準備の期間を含めて、各人の高校生活の中で、大きなエポックを生む。それだけに、それが正しい成長であつてほしいと思う。と云う事は、各自の主体的な成長の条件は違うけれども、とにかく、みんなが面白く勉強出来るようになつた深い友情によつてお互いにぐんぐん成長するようになつた、そして都立の生活に生きがいを感じる——こうした発展でありたい。

ファイヤーは、記念祭のシンボルだ。数十日間の努力の成果を夜空に焚いて、かがり火に心と心が熔け合う瞬間である。社会に対する、共通な志向を感情の面で強い絆に結び合わす熔鉱炉である。

今年のファイヤーは、すばらしい発展をしたと思う。自分の歌いたい歌を楽しくうたつた。特にクラス単位で「独立的」な歌を楽しそうにうたつていたこと、閉会してから残り火を囲んで、昔のようにやるせなさに身悶えるのではなく、生き生きと歌つているのをみて、新しい発展が此処から生れているのではないかと思つた。

ファイヤーに歌われた数々の新しいうたは、いま都立に歌声がひろく発展していることを物語つている。だが、この歌声も、学園生活が面白くなく、受験勉強の暗い影におそわれているから、時々集つて慰めにうさばらしをするためのものであつてほいけない。

受験勉強までもみんなで楽しく力一杯やつていけるようにする力にしてほしい。一方で、自治活動の低滞を続ける状態を打破し、うた声を大きな自治活動として高い意義をもつようにしてほしい。

若人の全てがもつている楽しいカンバニヤへのあこがれと、学生のだれもが抱いている学問への熱情をみたす記念祭を、来年は期待している。

協力の楽しさ

二年で迎えた記念祭。まず第一にすでく忙しかつたことだ。記念祭にのぞむ日までが忙がしく、且つ楽しく、苦しかつた。だから当日はまるつきり面白くなかつた。私はそれでも満足している。言うまでもなく多くの人が考えているように私はその過程において、重要であると思う。ある人にとつては、あるいは外来者には、そうたいしたものでなかつたかもしれない。しかし、私は、出来る限り力を出したし、皆も同じだ。そこで私達組全体は、部全体は、大きく前進した。しかしこれが校内全体の空気であるとは、絶対に思えない。去年の私と今の私とは、ずいぶんちがう。今年は去年よりはるかに、記念祭に、クラスに、目を開いた。

都立全員の動き出す時は、次第に近ずいている。ローマは一日にしてならずでもなかろうが、とにかく自然にもりあがつて行く力がほしいものだ。

(二B　嶽谷)

迫力のなかつたファイアー

終つてしまつて何か、気の抜けたような物足りなさを感じた「何だこれが記念祭か」というような感じである。記念祭前、上級生、先輩などから記念祭について話を聞き自分の頭の中で好きなようにこねまわしすばらしい、情熱的な若人の闘志を燃えたぎらすような、そんなものをおぼろげながら私は形作つていた、しかし実際の記念祭は全く私の予想に反したものだつた。実に盛り上りに乏しいものに感じた。特にファイアーについては私は記念祭すなわちファイアーとまではいかないが少なくとも記念祭の五・六〇%の要素を占めるものだと考えていた、そのファイアーにしてはあまりにもみじめだつたようだ。女子の参加出来るファイアーであつたにしてもあまりに迫力のなさすぎた感がする。

しかし、今年のファイアーが男女共通のものの過渡期である事を考えると成功した事になるのであろう。私としては来年のファイアーに以前の男子の行つたエネルギー消費法に対して、エネルギーの新しい消費法として新しい企画を作つていきたい。(一B　Y)

正修の大学受験科
詳細請求ハガキで　申込受付中
冬期講習　12月24日—1月8日
◎東大受験科（午前）
◎総合受験科（午前）
◎早慶受験科（午後）
◎英語・単語演習科（午後）
◎単語・単語演習科（午後）
◎テイクティション科（午後）
第三学期　1月11日—3月21日
受付12月1日より
◇東大受験科　◇総合受験科　◇早慶受験科
◇選科・社会の選択各科　◇テイクティション科
公開綜合模擬試験　12月18日・1月22日・2月5日
予備校の講義が自宅で聞ける
正修の通信受験指導
応用講座申込受付中
科目　英・解1・解2・国の4科目ゼ月2回添削指導
内容　予備校の英・解1・解2・国「基本講座用テキスト」とその解説誌"seishu"（A5・80P.）受験指導誌「受験通信」（A5・80P.）を毎月無料進呈
内容紹介はハガキで請求　（都高時報でみたと付記）
東京都千代田区神田駿河台二の三
国電地下鉄御茶の水駅下車西三分
東京都認可　学校法人　正修英語学校
運輸省指定
電話東京（29）二九八〇—一　振替東京一四四〇六九

十二月二十一日から二月十八日まで
冬期突破講習
◆百点をついた冬期講習と
◆連続試験練習と
◆討議と講評
◆定員制八十名で締切（十二月十日）
茗渓学院（旧御茶の水学院）
千代田区駿河台三ノ三　電話（29）〇八二〇

学増案内（大学入試部）
学力テスト　全国コンクール（第4回）
施行日時　11月27日（午前10.00—午後4.10）
施行科目　国語（90分）英語（90分）数学（120分）
通信指導
施行期間　5月（第1回）〜翌年1月（第9回）
施行科目　国語・英語・解Ⅰ・解Ⅱ
詳細案内書は下記へ御請求下さい
東京大学学内公認団体
東大「学力増進会」
文京区森川町77番地（東大正門前）
TEL（92）1649・4388
振替東京　43344

協力の實結び

◇協力の成果を花と開かせたが、三日目フアイヤーを最後にその幕を閉じた。

第七回記念祭は第一日には演劇、第二日にスポーツを中心にと、展示その他に各クラスクラブともその◇

第七回記念祭幕閉ず

拍手をあびた寢太郎 美しかった3Aの合唱

記念祭第一日目のトップは昨年と同じく一年B組「菊地寛作「義民甚兵衛」だつたが「畦昇天」のような異常に団結した情熱が欲しかつた」などという声を先輩から聞いた。それにしても多くの困難にぶつかりながら、上演にまで至つた努力は賞われるし、これを機会に、とかくまとまつていないといわれる一Bのまとまりを計つてもらいたい。

二B「終電車脱線す」はこの劇は登場人物の心理描写がポイントなのだが練習不足の感かなんとなく食いたりない。

「昇る太陽への讃歌」と名前は一寸よさそうだが内容的には少し主題がはつきりしなかつた。ただ動きがなく隊長の演説にはいささかうんざり「隊長時間です」は満場の拍手をあびたとく正にナイス野次であつた。舞出の上で何とか工夫はできなかつたものか。女子は出演しなかつた舞台裏ではなかなか仲良くやつていたようだ。

「次郎訂案山子」はその効もうすく「最低」のようだ。やり方によつては楽しい物になつたはずなのだが「いやらしい」という声も一部で聞いた。

一Aの「三年寢太郎」はこの日は員会がスポーツも演劇も唯形式上の与論調査だけに従つて新しいものの創造に対する決断力が不足していたという人がある。確かに慎重すぎるような点があつたかも知れない。そして技術的な問題―プログラム、予算等が遅れて各方面の活動、非常なブレーキになつかりでなく記念祭期間中の演劇の中で最も拍手を集めたもの。勘太にしる寢太郎にしろ完全に適役、動きのある節と共に成功させた大きな原因、練習が積まれているという感が強い。

本校先輩小中陽太郎作「失われた羽」は内容的に現代の高校生の生き方という像らに密接な問題を取り扱つているが演技の上では配役の失敗と共に練習不足。演技の中に真剣なものを感ぜず安つぽい感じが多分にあつた。それにしても何回も脚本を変えたり原作を作者に書き直してもらつたなどその過程の中で作り出したものは大事だと思う。

水泳部伝統のM百%の女性が登場する「還魂記」は一昨年の三Aに続いて二度目、装置など落ちているという声も三年などから多少聞いたが若く美しい妃及び少女などとうまく魂ならぬ衣が入れた変つたものでラブシーンなど奇妙な声が掛つていた。それにしても舞台が閉らずに死んだはずの王が歩き出したのはまさに喜劇、満場の爆笑を買つた。

第二日目に移つてトップは三Aの「瓜子姫とアマンジヤク」よくまあ宣伝したものだがポスター展を呼び起したのもこのクラス、当日は特別プログラム迄発行して意気多いに上つた。中田優君の指揮の合唱がすごく美しく装置、照明なども堂に入つたものだし「寢太郎」と共にこの記念祭の白眉であつたといわれている。

三C「能因法師」は三年でもあり練習も思うように、いかなかつたところから幾分動きがぎこちなかつた、各所で笑わせたがもう少し興行ぎが欲しいところ。

「豳霊屋敷」演技やセリフでもう少しの練習が望まれた。

この外音痴の合唱、放研の放送劇「トンネル」、中研の幻燈、演研「赤いローソクと人魚」などがあつた。

一般的に今年の記念祭の劇は「小品」的なものになり、楽しく和気合々と一つにまとまつてやるという線を出なかつたようだ。自分達の持つていや問題を、悩みを訴え、叫んでいるものが殆んどない、実際そういうものを選ぶのは各種の制約からむずかしく結局ああいう所へ落着くのだがそうそろ創作劇が生まれても良いのではないか。これからの課題となるだろう。

また、記念祭が殆んど劇に集中し、毎年演劇祭化して行く傾向が強いが、これを一概に否定しないがとれら類型化して行くものを打ち破るものがそうそろ出てもよいのではないか。

個人の自由と責任を打立てよう

二C 小沢正英

"今年の記念祭はまとまつたけれど迫力が一寸も感じられなかつた執行委員会はもつと全体の代表としての態度を意識して大たんな行動をとつて良かつた。迫力が少ないのは委員会の動きが余りにも貧弱だつたからではないか……云々。"種々さまざまに記念祭の反省が云われているが、先ず今年の執行委員会の状態がどんなものだつたかを考えてみたい。今年も昨年と同じように余りにも委員がクラス或はクラブの活動につきすぎていた。執行委員として委員会の仕事に専任してくれた人かわずか六、七名という状態で、どうして委員会がスムーズに運営できたはずがあろうか。

今年の委員会は特に一、二年から問題として出された根本的な意義目的の究明に出来る限り努力したその執行委員会の進み方が絶対的に間違つていたとは思えない。委員会内だけに表われたのではあるまい。結局全生徒の執行委員会に対する非協力さ、冷淡さが今年も強くでていたのであるとともに現在の都立にまだまだある個人個人の行動の「自由」をはき違えた責任逃れ、ルーズさ無関心さが記念祭全般を通じて強く感じられたたとも委員会の大きなミスであつた。

しかしこれらの原因を考えるとき単に委員会のこういつた問題のとりあげ方の遅さ、慎重さを原因とするだけよりむしろ前に述べた委員―委員会の状態の方が大きな禍となつたと思う。こうした状態はのである。そしてそれは全体の自治への無関心さの表示したものでもある。そういう意味で講堂配線のために独自活動を阻止されあの悲槍な声明書まで出さざるを得なくなつた放研の問題も、唯放研だけ、執行委員会内だけの問題としてかたすけてはならない。

その過程において非協力で、少しも関心を示してくれなかつたような人が、唯当日に表われた現象面の欠陥だけに文句をつけ、しかもそれを当事者だけの責任として考える人がまだ多くいるとしたらそれは幾分なことである。九時下校の原則が大体守られ、至つて無事平穏のうちに終了し、ファイアーも新しい歌が入り、大部形式的な秩序が整頓化されてきたことだけが今年「都立の記念祭」の成功であるとしたらあまりにも表面ばかりのものに捕われすぎているのではないか。

学校側から最高水準といわれけれど、果してそれが記念祭時における各自の行動にあてはまるかどうか疑問である。各自の積極的な意欲がない限り、迫力のあるものも、新しい形式も生れてはこないのである。

下の写真は、「瓜子姫とあまんじやく」の一景

展示 圧巻は共同制作展

今年の記念祭の圧巻はその着想、質に於いても、美研の共同制作"日本の音"だと云えるだろう。「チイラ浪浴」「六人のお地蔵さん」「羅兵衛と五重塔」「天の岩戸」など簡単な切紙細工であり、一つのものに協力して作り上げた点、そのチーム・ワークと共に讃えられよう、質的にも良く、ベニヤ原寸大の大きさから来る力には生徒のみならず、教師、父兄等にも「ほゝう、なる程――」など讃嘆の声を多く聞いた。

一方作品展は例年に比べ共同製作のためか、かなり小さくなり落ちていたようだ。たゞ増田君の「軍靴」「木貫」などは好評だつた。

天文、気象の会場ではテレスコープ三台がでんとおいてあつた。これで会場を圧していた。

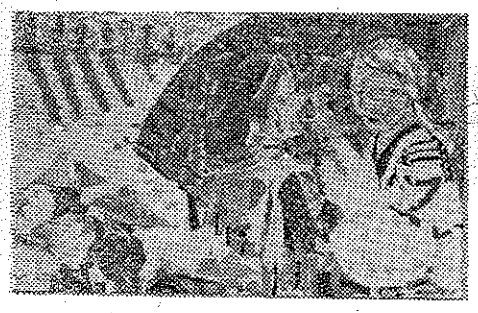
バンフ「台風二十二号」は一日で数十部はけてしまつたそうだ、内容も地学をとつてない人にもわかる程のやさしさだつた。「新しい企画が成功したのはうれしい。来年にも、もつと別の新企画を他の部でもやれば。」とある人は語つていた。

放研は例年の通り講堂配線をしたので、立体放送研究等の興味深い展示が見られなかつたのは、昨年のことを反省していれば、何とかなつたであろう問題だけに非常に残念であつた。

その他 物化班のニュートン・リング、生物班のネズミの心理実験センター八・六大会報告など、注目された。映研スチール展は、研究の余地が多分にあつた。

以上が今年の展示を一通り見たところであるが、今年の展示について、ある三年生は「一般に美研の共同制作や気象のバンフ発行をのぞいては、新しい独自のものがない。特に機研や映研は、完全にマンネリズムにおちいつているのではないだろうか。」と語つていた。彼の語つているように展示の明年の課題はそのクラブ独自の問題に、新しい着想を持つて進んでいくことではないだろうか。

下の写真は、好評だつた美研の共同製作「六人のお地蔵さん」



スポーツの祭典 AとBが引分く

秋晴れの記念祭二日目、スポーツの祭典がくり広げられた。総合優勝はAとBが引きわけた。

閉会式後、全校輪になつて大合唱が行われた。

第二日目は、午前八時半、片山先生、小沢執行委員長のあいさつによつて開幕された。つづいて、演劇も一応、時間通に終つて、七時からフアイアーが点火された、執行委員長、校長の手で点火されると共に恒例のタイコが一段と激しく鳴り出し意気を誘つた。まず全員で今年の記念祭歌、若者よ、トロイカ、嗚呼烈誠、青春という祭の、おゝプレネリ、仲間達、原爆ゆるすまじの順序、全員合唱がされその後クラス、クラブ等の合唱、最後にまた文乙歌、古きいらか、世界の青春、しあわせの歌等が歌われたが、マキが非常に少くて時間以前に終りそうになつたがその後輪を小さくして各種の歌をうたつた。そしてそこここにはクラス別のスクラムが組まれ、おそくまで踊り歌つていた。一年生や特に女子の間には不満の声が強く形式的な面での転換点に来たのではなかろうか。

マキが少なすぎた 転換期のフアイアー

おわび　多くの方々から寄せられた投稿を紙面の都合で割愛せざるを得なかつたことをお許し下さい。

技術の努力を 演研の劇をみて

二C 須田真理子

蔓語劇をというのが近年来の望みであつたそうだが、今年はそれを実現してみて大部いろいろな困難に突きあたつたようだ。こんしきれないほどむずかしい劇でもないのだろうが―。

ほとんどの人が、スタツフ、キヤストを求めたかたちになつてしまつたということだが、どう考えてみてもこれは大きな欠かんだつただから、舞台装置はクラス劇のどれよりも貧弱だつたといわれてしまうのだ。演技やメイキヤツプ等で、さすがは演研と感心する所も少なくなかつたのだが、全体の均り合いを欠いたこの劇はかたわのようなもので、演技は下手でも全体にまとまつていたクラス劇よりも見劣りがしてしまう。だが、演出およびキヤストその他部員の熱心さは、そのまま受け入れて良い。特にキヤストの熱演は、その他の欠点を超越して観客の心を引きつけるものを持つていた。また音知放研、その他部外者の協力は劇の中の大きな部分を占めて光つていたといいたい。演研が、これからは無理をせずに出来る範囲でやつてゆく事と、部員が増えて、豊かな、そして全体にうるおいを持つた公演ができるようになることを心から願つている。

バスケット、バレー、ソフト、サツカーの四種目にわたつて、絶好の青天下に熱戦がくりひろげられた。

その結果、総合ではAとBが四四点、Cが三八点で、AとBが引き分けた。

種目別にみると、バスケットでは男女ともにAが優勝し、バレーでは、男子はCが、女子ではBが優勝した。ソフトでは男子はCがBに圧勝し、女子はBが優勝した。サツカーでは、AはBに勝つたがあとはAとC、CとBは引き分けた。

運動そのものは参加できる政、応援がない等問題があつて評判悪るかつたが最後の大合唱は、みんな力いつぱい歌つた。

☆☆☆☆☆☆☆皆んなで参加しよう☆☆☆☆☆☆☆

一九五五年
日本のうたごえ
十一月二十七日（日）昼夜
国際スタジアム（元神宮国技館）
（昼の部：午前十時開場午後三時まで）
（夜の部：午後四時開場午後九時まで）

▼人場式…アコーディオン大合奏少年鼓笛隊演奏
▼うたごえ
（昼の部）「全国地方別のうたごえ」
晨村のうたごえ
（夜の部）「産業別のうたごえ」
▼東京交響楽園の演奏
組曲「青年の歌」より五曲
カルメン前奏曲（独唱も予定）
▼水蓮の踊り（中国）
松岡樹子バレエ団と中央合唱団
▼鎌踊り（九州民謡）…地元代表参加
▼中央合唱団の演奏
▼傘踊り（島根民謡）…中央合唱団他
世界青年祭で絶讃を博した代表的舞踊を大規模に再現
▼西多摩のおはやし
▼黄河大合唱…中国音楽研究会
▼朝鮮舞踊
▼オーケストラ伴奏の大合唱交流

学園評論
高校生、大学生の問題に眞けんに取り組んだ雑誌
学園評論社
東京都文京区富坂二～十五
振替東京二四四三
現在十一月号発売中・定価50円
当新聞部でも申込を受付けます
内容見本もおいてあります

現在の世界の青年はどんな事を考えているか
国際的な青年の動きは？
明日をになうのは青年だ！
なごやかな気分でよめる
「世界の青年」
10、11月号 50円 発売中
を読もう
世界民青連、日本委員会機関紙
申込みは新聞部杉山迄

新自治委員になつて

身近な自治会を

桝田健二

とかく、最近都立の自治の停滞が唱われ勝ちだが、それがそのまま前期の自治会解散となつて表われて来ている。その原因はここでは避けよう。原因を究明してのち、今後の行動を充実させようとする通り一辺の形では、はや解決出来なくなつてきているからだ。それは自治会や、執行委員会がはつきりとした形で、都立学生全体から一躍遊離した形となつている故だと思う。何故か？　一年生である自分には、例えそれがわかつていても、ぬけぬけと言えない難しい問題だ。

これが高校生活自治に大きな障害となつている。その例が記念祭不参加の或る学年の或る級である。記念祭前後の生徒大会やその他大きく引上げられて来たが、先の生徒大会での討論中に二年某君のその級が決して間違つているものでなく、むしろ正しい態度であると言う発言を聞いたが成程はなすけるものである。而して、この様な停滞がちな都立ふんいきにはそれが正しい形でとられるのを否定出来ない。しかし、停滞しながらも進みつつあるモノがあるからこそ、三学年九級を通して、その一クラスだけが踏やいて見えるのである。

つまり自分達の本当の姿をみせられたようにもしもその一クラスのとつた態度にすべてがそれに伴つたならば何うだろうか？それは、又それで千に一つの道が開けるかもしれないが危ないものである。こんな状態であつた記念祭がおわつた。

前期自治会解散が育つた事は、その時から、否それ以前からかもしれないが、都高生の個々がひとつの殻にとじ込もうと言う、エゴイスチックな無意識、意識的な態度をとろうとする原因の為だ！ではそれが間違つているのか、否それも言えない。（但し、それでは二年某クラスの問題のように都立の自治と言うものは肯定はするが、それを行う段階となると、理解不完全と言つて尻込みするのと同じだと思う。）

つまり表面からそんな所へ自分は一年A組の自治委員として推せんされ、それを受けた。この事が新旧合同の自治委員会で「何んな態度で自治委員を受けたか？　辞退はしなかつたのか？」等々問題にされた。その応えは色々あつたが「義務とか、…」には「こんな事をしていれば、将来の自分に急になるかもしれない」と云うものまで出た。自分は「それを素直に受けた」と云つたら相手が怒つて、何かしら揶揄された感であつた。つまり上級生の下級生に対するそうした自信への警戒である（一寸いいすぎたが）しかし「自分は選ばれタ以上その責任は重いし、自分でなくとも他の人が推されゝば、その人が成るようしとにかく誰れが成つてもよい。唯その時は自分の名が出たにすぎない、とにかく支持がある以上それに応えなければならないし、現在の停滞のふんいきのまゝの状態では、ほつといても何うにもならない。委員長岡田君のそうした見解から、自分からその任を辞退せずに受けた態度を生徒大会で見ていたせいもあるので、自分としてもそんな態度をえらんだ」と答えた。しかし全的に見て例の如く出席率やその他から、自治から逃避しようとする態が、委員その他生徒間にも見られるのではないだろうか？　記念祭反省にも考えられる様に、新しいモノへの過渡期かもしれないが、この辺でヒトツ緊張して全校生徒とガッチリと組んだ委員会となるべきだ！　それには、全校生徒が常に自治の動きや身近かな個々のつながりにむすびつけて目を向けるべきだ。過去に於いては、あまりにも或る部分で関心がうすかつた（これは過言に非ず）これが「義務とか、…」等々問題にされた。その応えは色々あつたが「義務とか、…」には「こんな事をしていれば、将来の自分に急になるかもしれない」と云うものまで出た。自分は「それを素直に受けた」と云つたら相手が怒つて、何かしら揶揄された感であつた。つまり上級生の下級生に対するそうした自信への警戒である（一寸いいすぎたが）しかし「自分は選ばれタ以上その責任は重いし、自分でなくとも他の人が推されゝば、その人が成るようしとにかく誰れが成つてもよい。唯その時は自分の名が出たにすぎない、とにかく支持がある以上それに応えなければならないし、現在の停滞のふんいきのまゝの状態では、ほつといても何うにもならない。委員長岡田君のそうした見解から、自分からその任を辞退せずに受けた態度を生徒大会で見ていたせいもあるので、自分としてもそんな態度をえらんだ」と答えた。しかし全的に見て例の如く出席率やその他から、自治から逃避しようとする態が、委員その他生徒間にも見られるのではないだろうか？　記念祭反省にも考えられる様に、新しいモノへの過渡期かもしれないが、この辺でヒトツ緊張して全校生徒とガッチリと組んだ委員会となるべきだ！　それには、全校生徒が常に自治の動きや身近かな個々のつながりにむすびつけて目を向けるべきだ。過去に於いては、あまりにも或る部分で関心がうすかつた（これは過言に非ず）これが故に新旧自治委員及び有志による自治会の出席数が少なかつたりするのだ。単純な一つの方法だが、未だだ確定的な形ではないにしても、そんな自治会にも、これから新しい意気を持つて、関心を少しでも持つ方があれば、自治委員会に出席される事を望みます。

詩　街路樹

街路樹は黙つている
赤帽をかぶつた子が
白帽をかぶつた子をいじめても
街路樹は見つめている
私をそして世の中のすべてを
街路樹が口を開いた
平和が姿を消そうとした時に
街路樹がいつた
美しい心から美しい行為が生
まれたときに
始めて平和が訪れると
街路樹は私を守つてくれる。

心うつ民族と歴史の過程

メキシコ美術展を観て

三A　中島菊子

私は、新聞などで、幾人かの美術評論家の感想文や解説を読んだ他には、メキシコ美術はおろか、メキシコという国についての、歴史的な知識さえ、ろくに持たずにメキシコ美術展を見に行つた。最初私が期待して行つたのは、主としてメキシコの「四人」といわれている、シケイロス、タマヨ、リヴェラ、オロスコなど現代作家達の作品だつた。期待以上に彼ら四人をはじめとする現代作家達の作品には、何か熱烈に訴えかけて来る荒々しいものがあつて、他の展覧会にはない緊張感に圧倒される思いだつた。けれども、もし私がそれらの現代の絵画作品だけを見せられたら、西欧美術には見られないメキシコ絵画の野性的なものに、物めずらしい感嘆の目を見はつただけで終つたかも知れない。というのは、メキシコ現代美術のもつている特色は古代との結びつきなしには考えられないからだ。今度の美術展では、プレコロンビアン時代、スペイン・メキシコ時代、そして現代とが順を追つて陣列されていたので、そのことが歴史的な知識の助けをかりなくても一目瞭然だつた。

メキシコ古代美術は、怪奇さとモニュメンタリティが他に類のない独自の様式を作り出しているけれど、そういうものが発達して来る以前の古拙時代に作られた女性の生殖力と大地を象徴する土偶には、日本の上代のものや、世界各地で出土しているオーリニヤック期の女人像に類似しているのは興味深かつた。古典時代と呼ばれる頃も古代美術が栄えたのは、八世紀以後で、この時に沢山作られたのが、あの奇怪な形をした神像や彫刻のある神殿などである。それらはすべて、狂信的な自然宗教と結びついたもので、そこに最高度に発揮されているモニュメンタルな性格は、現代メキシコ美術の性格をもはつきりと決定しているのが、私にもよくわかつた。

けれども、現代メキシコ絵画のうらづけをなしているのは、決して狂信的な自然宗教ではないし、そつたものが、個性的な表現をとりながら、裏に生々しく激しい力で、どの作品にもつらぬかれているように思われる。特にそれが強く感じられたのは、シケイロスとオロスコだつた。この人達は、革命戦争の時には自ら参加して戦つたということだが、その作品には民族の敵に対する抵抗が、かなり政治的な色彩で出ているように感じた。しかしこの人達が偉大なのは、その作品の中に、言葉で説明出来るものでなく、絵画のみが語れる何かを、高い芸術的感動をもつて表現しているからだ。四人の中で私が好きだと思つたのは、リヴェラの作品だつたけれど、シケイロスの壁画の強烈な印象は、今までに感じたことがないくらいだ。ともあれ、メキシコ美術展を見て、民族の歴史と美術について考えさせられた。（美研部員）

スペインに征服されてから、二百年間植民地時代が続き、独立してからのちも、メキシコ現代美術の性格は、現代メキシコ美術の性格をもはつきりと決定しているのが、私にもよくわかつた。

メキシコ史を見ると、一五二一年スペインに征服されてから、二百年間植民地時代が続き、独立してからのちも、メキシコ現代美術の性格は、現代メキシコ美術の性格をもはつきりと決定しているのが、私にもよくわかつた。

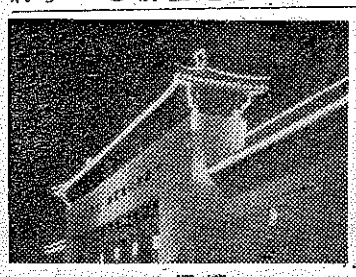
多面性のあるプロ

八潮高文化祭訪問記

大井町から十分余り歩いて、門を入ると左に広い講堂を持つ三階建コンクリートの校舎が眼前にそびえる。十一月五、六日第二回の文化祭が開かれた。この学校のプログラムは劇は二本であとは音楽部発表等である。都立の何んでも劇が良い等と飽和状態よりもはるかにさつぱりとして感じも良い。演研と英語部で上演するのだが一般に好演で特に照明等は巧いと感じた。コーラスは我校オンチ？なる方がどこのパートにがいてもまいと思つた。昔の第八高女だけあつて女学校の感じ強い。一階全部食堂に当てた所なかなかとうして料理屋を抜くすばらしさで、安くて、美味しく、見かけが良くて良栄養食を（？）と望んでいた。展示等は一般に種類が多く観衆を楽しませていた。例えば美術は数百点もの作品展示、習字の掛物など三階全部を使う等、社研は思想には深く入らないで特殊教育の実態等説明がくわしく面白い、物理室では我校と同じようにプリズムや放電、宝石の鑑定をしていたが化学室は実に説明不充分で自己の研究が身についていない点が目出つ、我校でもやつたらと思われる物に生物班のカイモグラフや球根の即売があつた。前者は人目を引き、後者に於いては多額とはいえないまでも実収があるとことだろう。

注目すべき点は家庭部で実に意が入れてある。部としての参加であるので我校よりはり切り方が異う。

栄養分析やケーキ、一日九十円の食事等良く出来ていた。衣は一般に実用形が多く、季節等にふさわしく作られていた。中でも料理での一日90円の食事や誕生日のケーキ等は考えがいかにも実際に適している。また保育園訪問も職業の一つとしてどれ位必要かも感じとれる。プログラムの一部しか見られなかつたが、全体的にいえることはプロに無理が見えぬことと、誇が張切つていることだ。自信を持つて各持場を担当していると一人一人についていえる。また実行委員会の動きが注目されるべきで物事をてきぱきと処理する面など都大附高もどんどん取入れて行きたいものだ。そして、彼等の主張の多くは「私達にとつて一番有意義だつたのはその準備期間の共同作業だつた」と述べている。そしてその作業、研究目的を、思うぞんぶんに発揮したと語つている。部活動も盛んで皆が楽しんで行いまた対象が何であるかを心得ていることは大変すばらしいことだと思つた。（杉山記）



中国見本市を見て

若々しい息吹

二C　杉山裕一

横の入口から入つて工具、オイル等があり、この面はまだヨーロッパ諸国の方が質からみても生産量の比から見ても水準が高いとは云うものゝ、中国の人がどれ位心を配つているかは明らかである。織物等はやはり無地は少なく、目を疲れさせるが、昔からの中国独特の美しさがこの会場を引きたてゝいる。日本製毛糸のものであると思つていたショウの筆があつたのには驚いた。書籍等では紙質は悪いが多く一般に出ている。雑誌等は専門誌が非常に多い事で医学方面はそれぞれ耳鼻科、小児科、内科、外科、等二十種近くも一般の書店にあるそうだ。文具の大半を占めていたのが、筆、墨、すゞりであつたのも面白かつた。産物では野菜が見事でカボチヤ、ナス等都立のマーケットよりも四倍位のがごろごろしていた。大豆などは日本もかなり輸入しているらしいが、米等は黄変米を求めるよりもどんなに良い物が安く入るだろうと考えさせられる。特に目を引いたのは土器、石膏彫刻、象牙彫り竹を編んだびょうぶ、毛皮だ。中でも象牙彫りは非常に細工がうまく光沢がなやかで荷車や人物など、また単なる置物でもためいきをもらす人が多かつた。竹のびょうぶは普通の糸を二本より合せたぐらいの大さに割つてそれを糸のように編んであるのだが気付かぬ人が多かつた。一通り見たら三時間ぐらいかゝつた。これからは日本人は隣りの中国をもつと意識して欲しい。そして、通商や友好関係をさかんにすべきだと考えながら家路についた。（中研部員）

【カット写真は見本市会場正面の夜景】

教科書問題におもう

本当の中立を

齊藤正子

さきごろ、日本民主党から「うれうべき教科書問題」というパンフレットが発行されました。教科書が検定制度である場合、出版社が多過ぎるための売込み競争の弊害（癒着）あるいは配給機構の不公正によつて値段が高くなることをあげ、また教科書の中に「偏向」があるとして検定制度を廃止し、国定にせよといつています。偏向があるかないかは、文部省が出した「指導要領」と教科書をあわせ読んでみれば、そのような事実が全くないことはすぐわかるのに、このパンフレットは部分的抜き書きで全体をゆがめ、アダム・スミスの賃金論をさえ「悪質な破壊的なせん動」とまで呼び、日本歴史の時代区分が、当時まだ翻訳の出ていないソヴエトの経済学教科書にならつていると独断するあたり、いかにこのパンフレットが真実に基かず、無理なこじつけに満ちているかがわかります。

国定になれば安くなるといつていますが、国定や統制は値下げの保障になるどころか、かえつて要応の規模が大きくなるだけの話で教科書の定価を合理的に引き下げることを社会保障と国家の補助の問題として考えなくてはなりません。

日本の労働組合の中で、日教組は一番大きな組合の一つです。その組合員である一人一人の先生は子供を通じて親とかたく結びついています。日教組は社会的に大きな影響力をもち、その動行は選挙にも大きく響きます。そのために政府はさきに「教育二法」で先生の自由を奪い、今度は教科書問題で教育を統制しようとしているのです。このような統制が、どこに行くかはおよそ予想される所です。私たちは、文部大臣の変るたびに政党色の出た教育の「中立」ではなく、本当の中立でありたいと思います。（編者は本校教諭）

十二月廿三日より一月七日迄
十五日間九十時限
城西の冬期講習
十二月一日より受付則案〒20円
井の頭線西永福駅下車
杉並区下高井戸四の八九一
TEL（32）七〇〇〇番
渋谷より20分
新宿より25分
吉祥寺より15分
城西の第三学期
綜合受験科（午前・午後組）
模擬試験科（毎日曜施行）
高校在學組（四時卅分より七時廿分）
東京都認可・国私鉄都電バス指定校
城西高等補習学校

厚生会案内
高級ノート
六〇～十円迄
各種（市価の六割）
書籍・辞書
（市価の一割引で注文できます）
その他學用品、衣類等色々
御座居ますからぜひおいで下さい。
通用門側別館内
厚生会

新刊書籍・雑誌
阪東書店
都立大学駅前
TEL（78）5261

古書の御用は
ミネルバ
学芸大学駅前

いつも素晴しい味・量の
王家のパン
都大坂下・王家製パン店

紙と文具は
株式会社 津国屋商店
都大前通り　電（78）5472